

行歯会だより 第164号

(行歯会=全国行政歯科技術職連絡会) 令和3年8・9月号



1 令和2年度行歯会都道府県世話役アンケート結果報告

～新型コロナウイルス感染症対策でのオンラインの活用について～

船橋市東部保健センター 吉野 ゆかり

2 都道府県世話役のつぶやき

岡山市保健所 健康づくり課 医療専門監

1 令和2年度行歯会都道府県世話役アンケート結果報告

～新型コロナウイルス感染症対策でのオンラインの活用について～

船橋市東部保健センター 吉野 ゆかり



昨年度も行歯会世話役の皆様を対象に、世話役アンケートを実施いたしました。テーマは「新型コロナウイルス感染症対策でのオンラインの活用について」です。事務担当理事の林理事（習志野市）と担当させていただきました。結果についてご報告させていただきます。

【目的】

新型コロナウイルス感染症対策において、自治体においてもインターネット環境の整備が加速されたのではないかと推察される。職場のネット環境の変化や日常業務の中でインターネットをどのように活用しているか都道府県世話役へアンケートを実施し、オンライン活用の現状を把握する。

【調査方法】 行歯会都道府県世話役 48名にアンケートを依頼

【調査時期】 2021年1月

【回収状況】 行歯会都道府県世話役 44名より 45件の回答あり。回答率 93.8%

【アンケート内容】

1. 回答者の所属
2. コロナ禍により職場のオンライン化は進んだか。使用回線は何か。
3. 歯科保健業務においてオンラインを活用しているか。
4. 歯科保健ではどのようなことで活用しているか。
5. webを使用した特徴的、先駆的な事業を行っている自治体はあるか。

【アンケート結果】

1. 回答者の所属

アンケート回答者の約 3/4 が都道府県の所属であった。

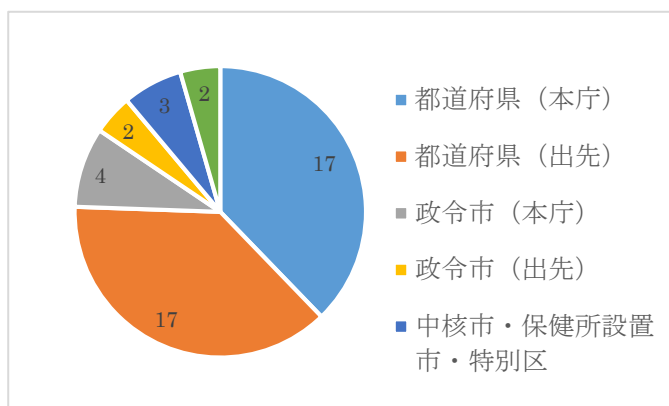


図1. 回答者の所属

2-1. コロナ禍により職場のオンライン化は進んだか。

全庁的に進んでいる	33	73.3%
所属部署は進んでいる	3	6.7%
他部署は進んでいる	3	6.7%
変化なし	5	11.1%
その他	1	2.2%
計	45	100.0%

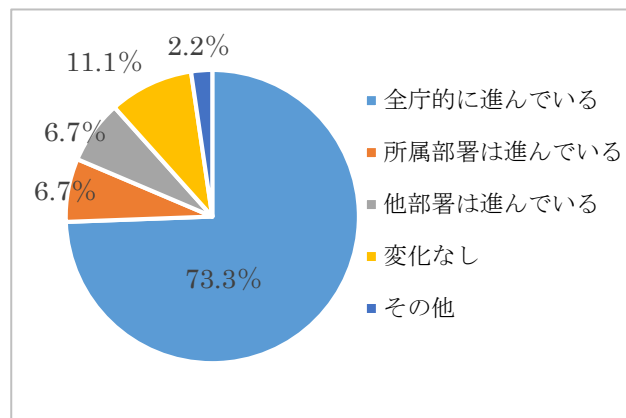


図2. 職場のオンライン化は進んだか

コロナ禍により職場のオンライン化が「全庁的に進んでいる」「所属部署は進んでいる」「他部署は進んでいる」と回答があったのは約 9 割弱であり、ほとんどの職場でコロナ以前と比較して変化がみられている。

2-2. (2-1で「進んでいる」と回答した方のみ) 使用回線は何か。(複数回答可)

庁内ネットワーク	21
外部インターネット	16
Wi-Fi	13
ポケット Wi-Fi	8
その他	3
計	61

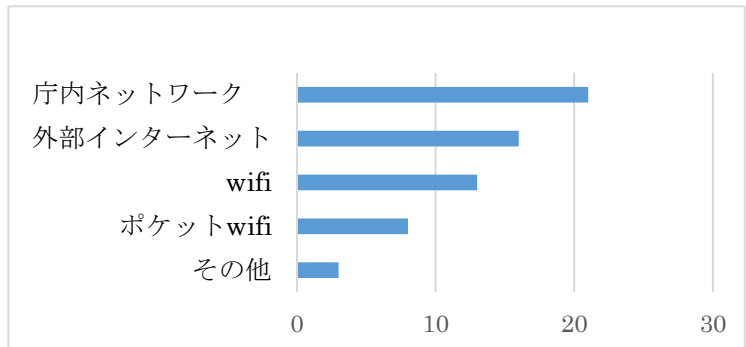


図3. 使用回線 (複数回答)

「庁内ネットワーク」の回答が最も多かった。「外部インターネット」や「Wi-Fi」、「ポケット Wi-Fi」の使用も見られた。

3. 歯科保健業務におけるオンラインの活用

実施側・参加側として、ある	13
実施側として、ある	11
参加側として、ある	7
ない	13
不明	1
計	45

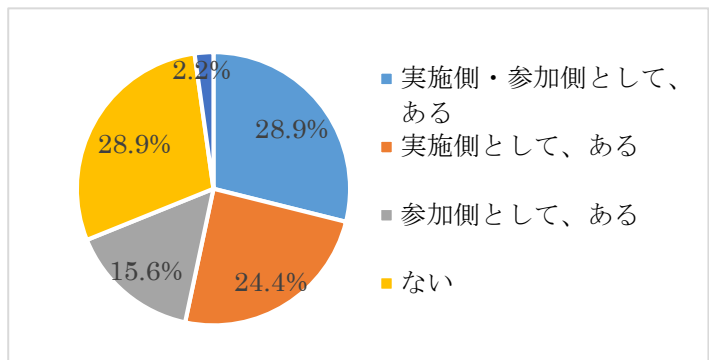


図4. 歯科保健業務におけるオンラインの活用

歯科保健業務におけるオンラインの活用は、回答者の 68.9%にみられた。

4. 歯科保健ではどのようなことで活用しているか。(複数回答可)

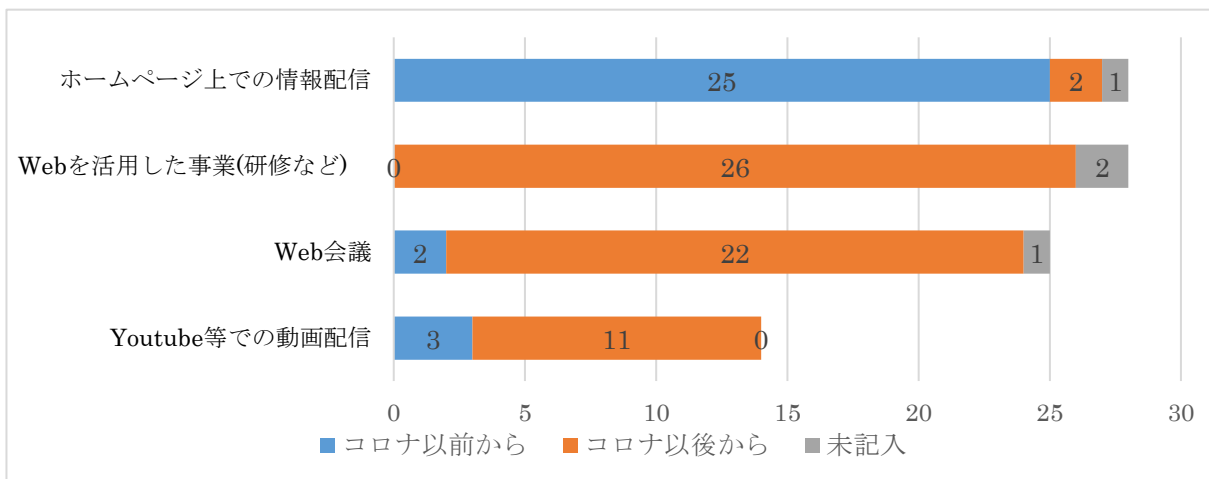


図5. 歯科保健でのオンライン活用と活用開始時期

ホームページ上での情報配信が最も多かったが、コロナ以前から行っている自治体が多かった。コロナ以後に開始したもので最も多かったのが、Webを活用した事業であり、コロナ以前には見られない項目であった。またWeb会議や動画配信もコロナ以後に開始した自治体が多くみられた。

(1) ホームページ上での情報配信

歯科口腔保健対策（条例、計画など）、審議会資料、実施事業の周知、歯科保健啓発資料（う蝕予防、オーラルフレイル予防、摂食嚥下機能支援等）、歯科リンク集などを掲載している。

コロナ以後には、上記に加えて、事業が中止になったことにより事業の講話内容や使用媒体、配布資料を公開するなど啓発資料の内容の充実を図ったというケースもあった。

(2) Webを活用した事業（研修など）

使用ソフトは「Zoom」が最も多く（14件）、以下「Webex」（9件）、「Zoom ウェビナー」（3件）、「Microsoft Teams」（1件）であった。

研修の運営や参加、意見交換会などが多かったが、市民向けの健康教育や市民向けWeb歯科相談など、住民向けの事業で使用しているケースもあった。

(3) Youtube等での動画配信

歯科関係者や関係機関向けに委託事業の説明や、研修会の動画配信、情報提供で使用されていた。また住民向けには歯科普及啓発動画（フレイル予防、妊婦や幼児などライフステージに合わせたもの）、講座の配信に使用されていた。

(4) Web会議

使用ソフトは「Zoom」が最も多く（13件）、「Webex」（10件）、「Microsoft Teams」（3件）、その他（「Skype」、「s-Meeting」など）が1件ずつであった。

県や保健所、市町村、関係団体（歯科医師会等）との歯科保健関係の会議や、人材育成等の勉強会やオンライン授業、外部有識者や団体との会議など、従来であれば多くの人が集まる会議や打ち合わせ、授業などの代替として活用する事例が多くみられた。また、業者と資料を会議ソフトで共有しながら音声のみで会議したという事例もあった。

5. Webを使用した特徴的、先駆的な事業を行っている自治体はあるか。

・神奈川県 厚木保健福祉事務所

障害児の摂食機能発達支援相談をオンライン（Zoom）により実施

・静岡県 下田市

通いの場でのWeb口腔衛生指導（医科歯科大と繋いでいる）の県モデル事業の実施

【まとめ】

昨年度は新型コロナウイルスの感染拡大により、目まぐるしく世の中が変化した1年でした。県や市区町村でも、人との接触を控えるという観点から、対面で実施することや多くの人が集まるような会議や事業・イベント等が中止、またはこれまで行ってきたように実施することが困難になったりと、混沌とした社会情勢を鑑みながら、試行錯誤をしながら業務にあたってきたのではないのでしょうか。社会的にもリモート勤務が一般化してきて、Web環境が急速に整備されてきており、行政でもネット環境が変わったり、会議ソフトや動画編集ソフトが庁内で利用できるようになった職場も多くみられました。

多様な情報発信ツールを使用できることで、例えば遠隔地に滞在している有識者に講話を依頼したり、会議に参加してもらえたりする機会も増えたり、住民も自宅にしながら24時間365日、正しい情報を受け取ることができると思います。また、これまで行政側からアプローチがしにくかった世代（特に働き盛り期？）にも、Webを使用することで何か効果的なアプローチできるのでは？と、広く歯科保健の周知啓発ができる可能性を持っているのではないかと考えます。今後は、Webを使用することのメリットを最大限活用して、「新しい生活様式」に合わせた歯科保健の展開を構築していけたらと思います。同時に情報弱者をサポートすることも必要です。情報の差が「健康格差」につながらないような配慮をしていくことも重要であると考えます。

行歯会の理事会も、昨年6月にZoomを活用して初めてオンラインで理事会を開催しました。これまで距離があったことで首都圏以外の理事の参加が困難でしたが、ネットを活用することによって距離のハードルを簡単に越えられました。また、今年2月には行歯会主催で、「『小規模だからできる楽しい歯科保健』を語り合う ～オンラインで地元を超えてつながろう 同じ仲間を見つけつながるプロジェクト～」を、Zoomを使用して開催しました。全国各地で勤務する会員がつながる場となり、大盛況で終えることができました。行歯会としても事業運営の幅が大きく広がり、メーリングリストだけでなく、オンラインツールを利用して情報交換や交流など事業展開もできることがわかりました。

このアンケート以降、オンラインによる会議や研修、情報提供などさらにweb活用が促進されていることと思います。このコロナ禍のピンチをチャンスに変えて、Webの活用が更なる歯科保健の発展の一助となり、『世界最高水準の歯科保健を目指して』いけたらと思います。

末筆ではございますが、世話役の皆様、業務御多忙中の中、アンケートのご協力をいただきましてありがとうございました。

2 都道府県世話役のつぶやき

岡山市保健所 健康づくり課 医療専門監 河本幸子

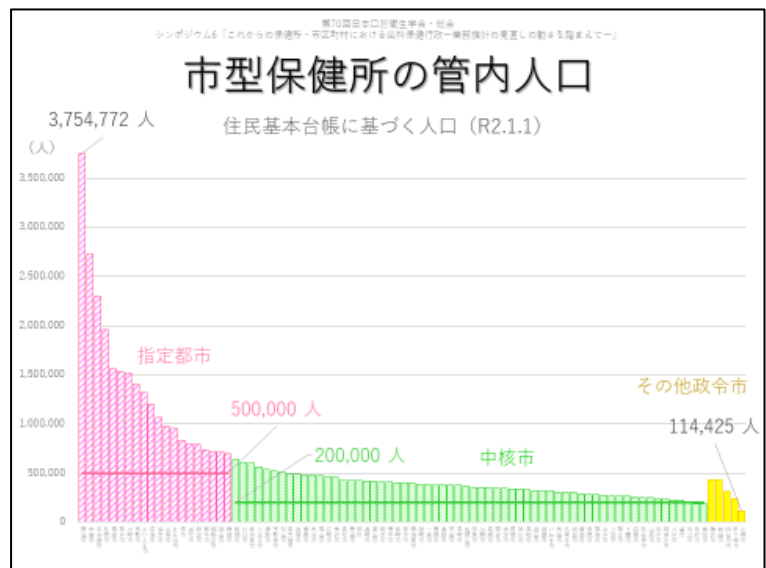
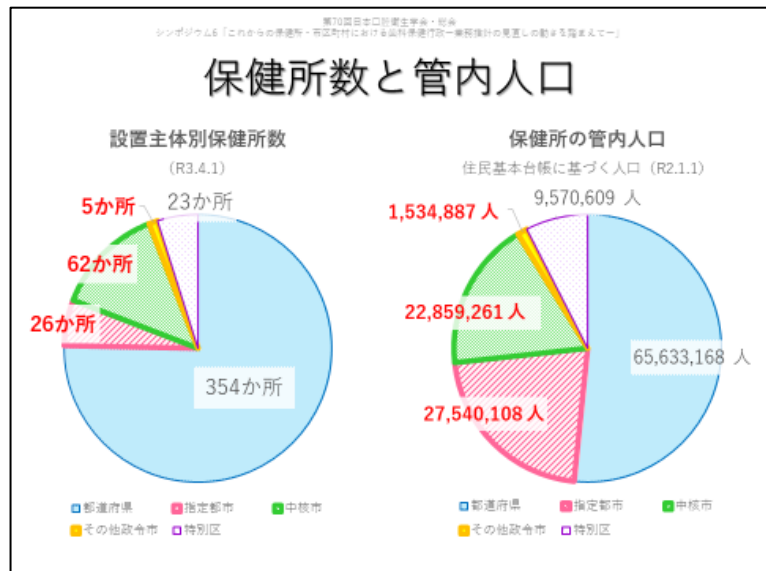
第70回日本口腔衛生学会・総会が開催される沖縄で、皆さんとお会いするはずだったのに、Web開催になって、残念でした。学会や夏ゼミで、県外の皆さんと顔を合わせて話をし、事業や研究のアドバイスをいただいたり、情報交換をしたりしていたのに、それができず、鬱々とした日々を過ごしています。

とはいえ、できることは、せねばなりません。第70回日本口腔衛生学会・総会には、シンポジウムとポスター発表で参加しました。



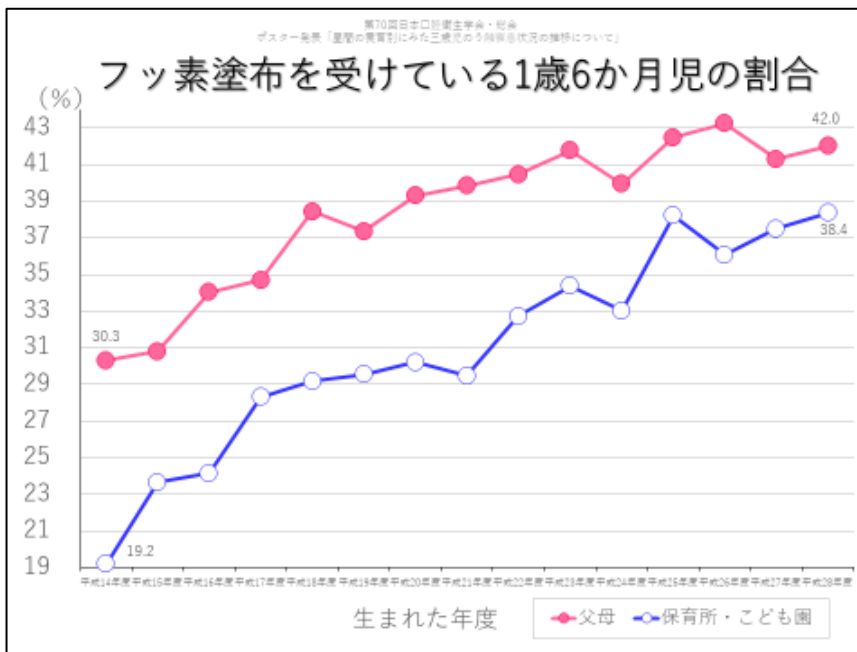
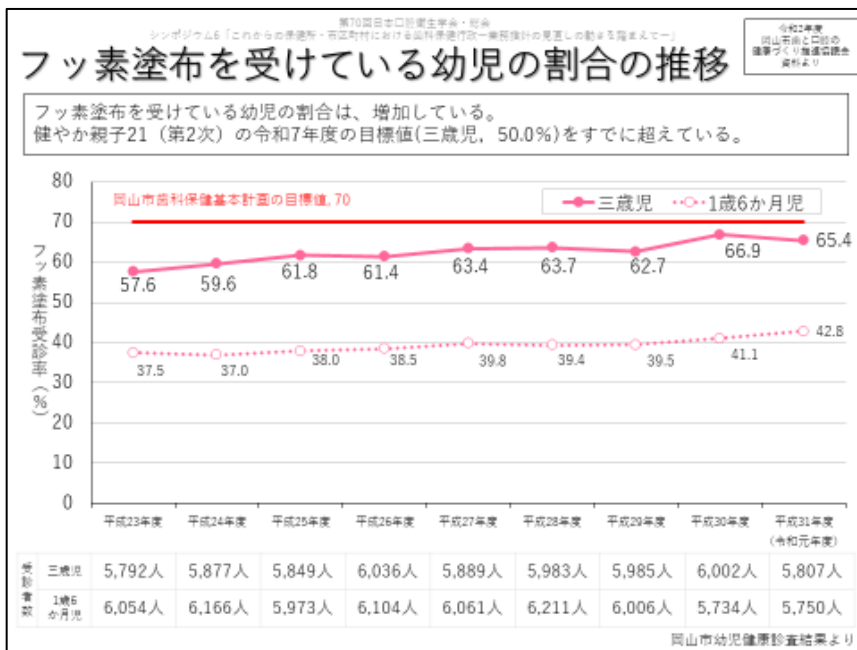
(栄一が揮毫した扁額)

シンポジウム「これからの保健所・市区町村における歯科保健行政」では、全国で93か所ある市型保健所が、都道府県型保健所・市町村保健センター・本庁の機能を一括して果たしており、地域に密着して、地域全体の健康づくりを推進していること、多くの人口を管轄していること、その歴史や人員配置は様々であることなどを資料の整理を通して、改めて認識しました。市型保健所ならではのやりがいや悩みなど、同じ境遇の歯科専門職が集まって、話し合う機会があればよいですね。



ポスター発表「昼間の養育別にみた三歳児のう蝕の罹患状況の推移について」では、15年間の岡山市幼児健康診査の変化を昼間の養育者という視点からまとめてみました。この15年間で、父母による養育が約7割から約5割に減り、保育所等へ通っている児が約2割から約5割に増えていました。フッ素塗布の受診率は、徐々に増えており、いずれの年も父母による養育を受けている児の方が、保育所に通っている児よりも高かったのですが、その差は徐々に小さくなっていました。岡山市の三歳児健康診査時点での定期的なフッ素塗布の受診率は、約7割です。どんな育児環境の児でもかかりつけ歯科医があり、定期的にフッ素塗布が受けられるように、支援していきたいと思えます。

これらのデータも反映して、岡山市歯科保健基本計画の最終評価をし、次期計画を策定しなければなりません。歯科口腔保健の推進に関する基本的事項の最終評価と次期基本的事項の策定は1年延期になり、今年度行う予定だった歯科疾患実態調査も中止になりました。今後、岡山市の計画評価と策定をどのように行うか、思案中です。



● 岡山の最近のトピックス

NHKの大河ドラマ「青天を衝け」で、井原市の興讓館が紹介されました（6月13日放送）。
渋沢栄一が一橋家の家臣として備中を訪れたときに、興讓館館長であった阪谷朗廬と親交を深めた
とのこと。駅伝で有名な興讓館高校ですが、こんな歴史があったんですね。

冒頭の写真に
ご注目！

★「NEW FACE」「都道府県世話役のつぶやき」その他、募集します★

コロナ禍で、対面での研修や市町村等の交流の機会が減少しています。また、これま
での歯科保健活動を変更せざるを得ない状況も多々あります。

新入会員、入職から3年目位の若い人、一人職種の方など、つぶやいてみたいことは
ありませんか？

こんな工夫をしている、こんなことに困っているなど、投じた一石が誰かのヒントに
つながり、日ごろの歯科保健活動が広がるかもしれません。

「行歯会だより」の配信メールに記載されている編集担当宛に
ご連絡ください。お待ちしております！



♪ 編集後記 ♪

新型コロナウイルス第5波の対応に追われ、気がつけば8月が終わってしまっていました。
今号は編集担当としての役割を全く果たせず、相方の担当者に迷惑をかけましたことをここで
懺悔します。私の生活は謝罪と反省で構成されています。（W）

今月号より編集を担当することになり、あわてて過去の行歯会だよりを読み返し、感銘を受け
ました。全国行政歯科技術職の皆様と「つながる」、これまでの行歯会だよりの歴史を「つなげ
る」お手伝いができればと思います。（H）

「歯っとサイト」掲載コンテンツ募集！

「歯っとサイト（歯科口腔保健の情報提供サイト）」

<http://www.niph.go.jp/soshiki/koku/oralhealth/index.html> では、

掲載コンテンツを募集しています。

掲載を希望される場合は、「行歯会だより」の配信メールに記載されている編集担当宛
にご連絡ください。